

## 研究発表大会における研究実践をご報告します。

### 【外国語活動・外国語科 4年生】

横山由佳教諭による外国語活動・外国語科の提案授業「オリジナルメニューを考えよう (What do you want?)」が行われました。欲しいものを尋ねたり答えたりして、オリジナルピザを作る活動を通して、インタビュー活動を楽しむことをねらった授業でした。

授業では、まず前半に、音楽に合わせて表現に慣れるチャンツや様々なゲームを通して「What do you want?」のフレーズに慣れ親しみました。その活動の中で複数形を使うことに気がきました。

その後、その表現を使ってインタビュー活動を行いました。前半に繰り返し発話していたことで、子供たちは自信をもってやりとりすることができました。1回のやりとりではなく、欲しい物を尋ねて答える、個数を尋ねて答えるというように2回以上のやりとりを行うことに挑戦しました。また、売り切れた場合の答え方も取り入れました。子供たちは、自分の思い思いのピザを作るという目的意識をもち、楽しく活動することができました。

最後に、作ったピザを画面に映し紹介しました。そこでは、以前学習した“I like～”の表現を使うことで、これまでの学習の積み上げを実感することができました。「好き」だけでなく、「嫌い」の表現をする子供もあり、柔軟に反応する力がついてきていることを感じました。今後も楽しくコミュニケーションをとっていく力を大切にしていきます。



外国語活動・外国語科の授業の様子

### 【外国語活動・外国語科 2年生】

青木陽子教諭による外国語活動・外国語科の提案授業「色と形であそぼう (What～ do you want?)」が行われました。欲しい色を尋ねたり答えたりして、カラフルな蝶を作る活動を通して、インタビュー活動を楽しむことをねらった授業でした。

授業では、色の表現を復習することから始めました。ALTの発音をよく聞き、発音練習をしたり、グループでかるたゲームをしたりするなど楽しく取り組める工夫をしました。

インタビュー活動では、友達や先生と、自分の欲しい色のシールをもらったりあげたりしながら、オリジナルの蝶を作りました。どの子供も、本校が大切にしているスマイルやアイコンタクトなどのコミュニケーションポイントを意識してインタビュー活動を楽しむことができました。



外国語活動・外国語科の授業の様子

分科会では、本校が全校で取り組んでいるウォーミングアップについて、参加された先生方から取り入れていきたいという感想をいただきました。曜日や月、天気や数字など、1年生から少しずつ積み上げていき、授業の最初に共通して行っていくことで、中学校へ向けて、基礎の力を確かなものになりたいと考えています。また、コミュニケーションポイントについても、実生活の会話の場面では本当に役立つものになると、感想をいただきました。今後も、小学校での外国語教育として、楽しみながら学んだ表現を使っていき、子供たちから出てきた表現を認めつつ、さらに表現を増やしていくということを大切に、指導にあたっていきたいと思えます。

研究発表大会における研究実践をご報告します。

## 【音楽科 6年生】

谷口峻音教諭による提案授業「旋律をずらして、美しく奏でよう」が行われました。一音ずつずれた3つの旋律を何小節ずらして演奏したら美しく聞こえるか、ICTを活用して模擬演奏しながら確かめていき、3つの旋律の音がきれいに響きあう感じをつかみ、演奏につなげていくという授業に取り組みました。グループになり、ICTを巧みに扱い、グループ全員で拍を感じ取りながら、様々な旋律のずらし方を試し、美しい響きを追究しようとする子供たちの姿が見られた授業でした。



音楽科の授業の様子

「美しく音が重なるとは、どういうことなのか」「きれいに音を重ねるためにはどうしたらいいのか」というところに研究テーマを見出し、今年度はカノンに注目した研究を行っています。カノンとは、同じ旋律をある程度ずらして演奏する形式の楽曲のことです。カノンは、歌唱や器楽でも扱うことができ、比較的短い旋律でも演奏効果が得られ、音楽を演奏するために大切なことを学ぶため、様々な場面で活用しています。今回の学習では、旋律をずらすことによってうまれる様々な響きを体感し、その響きをどのように感じるか確かめるために、ICTを活用しました。子供たちが自ら拍を取り、曲の構造を明らかにすることを通して、考えを深めることができたため、授業の後半のレコーダー演奏の際には、こちらが期待していた以上の素晴らしい演奏をすることができました。音楽の学習では、これからもカノンの活用を進めながら、共に奏でる音楽を目指した授業づくりを進めていきます。

研究発表大会を受けて、各教科・領域部が提案する「学びのプロセス」による、子供たちのどんな様相や変化で評価していくのかの見取りをさらに向上させ、教科・領域特有の評価につなげていく必要性をもちました。

そこで、研究発表大会後の校内授業研究会（第5学年：図画工作科：堀愛教諭「ほって、刷って、重ねて」）において、360度レコーダーを使って子供のとりかかりやつぶやきに注目して学びのプロセスを評価していきましました。



## 360度レコーダーを使用した研究授業

授業後には、鳥取大学地域学部の武田信吾先生に、授業づくりのポイントについて指導していただきました。提案する「学びのプロセス」が子供たちにとって有効に働くためには、①場の設定②条件提示③子供の様相から課題や問題点を共有する場を柔軟にもつなどの教師側の環境準備や臨機応変な対応を見直すことであると、ご指摘いただきました。これらのことは、今後の課題とし、実践を通して改善していきます。



武田 信吾 先生によるご講話



## 本年度の研究成果についてご報告します。

本年度、公立小学校や他県の附属小の先生方、教育委員会の方など、本校の公開授業・研究会に多くの方々に参加されました。以下、感想を紹介します。

### 【授業について】

- ・自分への問いをもつ授業づくりのための共有化や可視化等の様々な提案をいただき、勉強になりました。
- ・鳥取大学の共同研究者の先生が教えてくださった図工の新しい取組がよかったです。
- ・今回、国語科（書写）では、学習指導要領 2020 年度の実施に向けて、私の勤務先でも今まさに検討中の水書用筆を用いた授業を公開していただきました。学びのプロセスや効果が大変参考になりました。
- ・小学 1 年生が毛筆に励む姿を見て感動しました。とめ、はね、はらいをしっかりと習得させるためや硬筆でしっかりと書けるようになるために毛筆から硬筆の流れを組んでおられると知り、改めて小学校の基礎基本の大切さを感じました。また、目からうろこの授業を期待しています。
- ・先生方の授業実践を見させていただくのも楽しみにしています。
- ・算数の思考力の伸びにつながる授業実践についてこれからも授業を見せていただきたいです。
- ・外国語のウォーミングは、学年に関係なく日々の授業の積み重ねの大切さを実感しました。子供の外国語、語彙力向上につながる学習や取組についてまた見させていただきたいです。
- ・実際の授業を見せていただけることがとても参考になります。
- ・ICT 機器を駆使した授業実践について様々な取組を提供していただけるとうれしいです。
- ・他校でも実践できそうな内容の授業公開や効果的な指導・支援についての話を聞かせていただきたいです。

### 【今後への期待】

- ・今後も今年のように明確な理論のもと、先進的な教育実践を発表してくださることを期待しています。
- ・先進的な取組をされているので、どんどん県内の小学校に広げてほしいです。大変参考になりました。
- ・既存の教科に加えて、他校がなかなか実践研究できない分野も引き続き取り組んでほしいです。多くの人に認知されるまでに時間がかかりますが、価値があるので先陣を切ってほしいです。

## 本校職員の研究成果報告

杉谷義和教諭の実践研究『「一人一人の学びが見える特別の教科道徳の授業づくり」～学びのプロセス「自我関与」「共有化」「自己内対話」を軸として～』が、日本教育公務員弘済会鳥取支部教育実践論文選考において、優秀賞を受賞しました。

小学校は平成 30 年度、中学校は令和元年度に特別の教科道徳が全面実施となりました。文部科学省は、答えが一つでない道徳的な課題を一人一人の子供が自分の問題と捉え、「考え議論する」道徳科授業への質的転換を求めています。そのような背景の基、提案性のある研究実践です。受賞された教育実践論文は「教育実践研究論文集第 14 号」に掲載され、教育機関や公立小学校の教育実践に役立てられます。



村上弘樹教諭の実践研究「統計的思考力を培う数学的活動に視点を当てた実践」が教科書会社「啓林館」に取り上げられました。この研究実践は、従来行われていたデータの収集、表や柱状グラフなどの選択と表現といった統計処理能力を重視する実践から、ある問いに対してどんなアプローチ、どんなデータを収集すればよいのか、さらにそれらのデータは、結論を導くものとして妥当なものかといった統計的思考力を培う数学的活動に重点をおいた実践です。啓林館のHPに掲載され、先進的な取組が広く発信されています。



## ～本年度の研究のまとめ～

研究の 3 年次である本年度は、各教科・領域の目指す子供像を明確にし、「子供たちの学びは、学習の過程に存在する」という当たり前を見つめ直し、日々の授業づくりと実践に励みました。そして、学びのプロセスを通して、子供がどのように学び、どのように変化したのかに着目し、検証することで研究テーマの位置付けに迫りました。各教科・領域の実践から、試行錯誤しながら課題追究していく子供の姿が認められたことは成果です。今後、子供の変化に着目した学びのプロセスにおいて、教科特有の見取りを確かなものとし、鳥取大学スタンダードを構築することで、地域の学校教育の振興に寄与したいと考えます。

今後も引き続きよろしくお願ひします。